

網走市総合計画

基本構想



序章 第6期網走市総合計画策定の考え方

1. 計画策定の趣旨
2. 計画策定の視点
 - みんなの総合計画
 - わかりやすい総合計画
3. 計画の構成と期間
 - 基本構想
 - 基本計画
4. 計画策定の体制

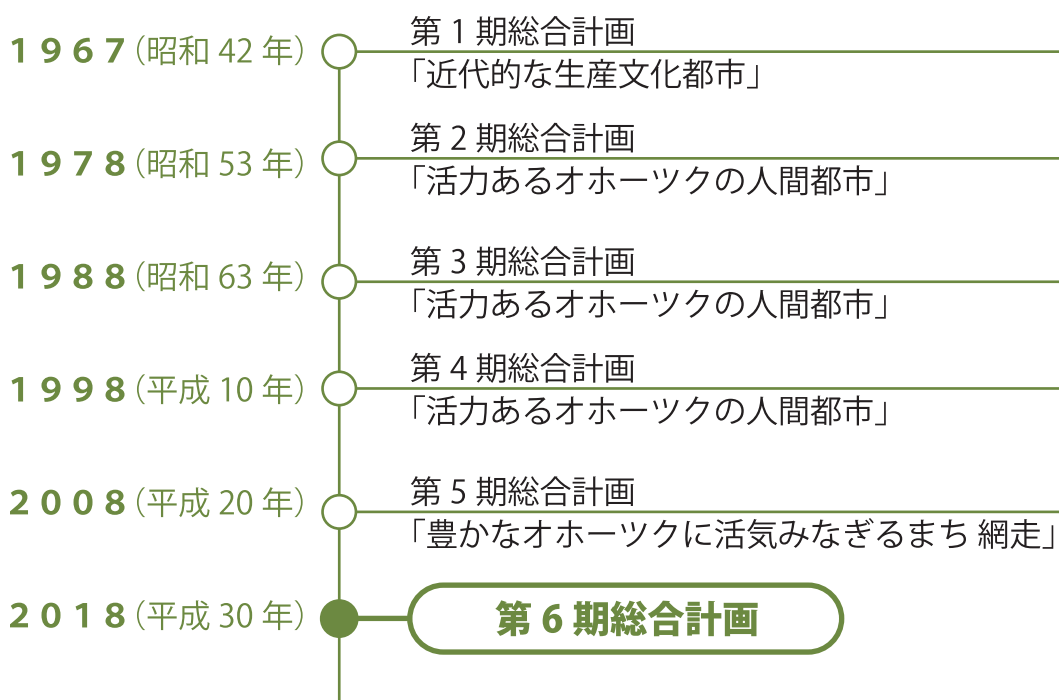
1. 計画策定の趣旨

本市では、昭和42年以来5期にわたり、まちづくりの長期指針として総合計画を策定し、まちづくりを進めてきました。平成20年に策定した第5期総合計画では、「豊かなオホーツクに活みなぎるまち 網走」を将来像として、また、平成27年には、総合計画の戦略版として「網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、まちづくりを進めています。

しかしながら、本格的な人口減少・少子高齢化社会を迎え、地域経済の縮小や地域活力の喪失が懸念されるほか、経済のグローバル化の進展に伴う競争力の激化や、頻発する大規模な自然災害、環境問題の深刻化、公共施設等の老朽化問題など、さまざまな課題が顕在化しています。

めまぐるしく変化する社会経済情勢は、住民のライフスタイルに変化をもたらし、価値観やニーズは、多様化、高度化しています。

本総合計画は、このような中であっても、課題を乗り越え、誰もが健康で幸せを感じることのできる、目指すべき「網走の姿」を今後10年間で実現するために、基本的な考え方や取り組みを示すものです。



2. 計画策定の視点

これまでも、市民、団体、企業などの参加、協力を得ながらまちづくりを進めてきましたが、本格的な人口減少・少子高齢化社会を迎え、さまざまな困難を乗り越えるためには、これまで以上に協働のまちづくりが重要です。

総合計画の策定は、「市民の参加」、「市民意見の反映」、「目指す将来像の共有」を基本としました。

みんなの総合計画

「協働によるまちづくりの意識向上」と「行政組織の活性化」を目的に、策定過程に多くの市民の参画を促し、「みんな（協働）でつくり、みんなが進める総合計画」とします。

わかりやすい総合計画

「市民との協働のまちづくり」を進めるため、まちのめざす姿と方向性を市民と共有するため「わかりやすい総合計画」とします。

網走市民憲章

昭和 47 年 7 月 17 日制定

わたしたちは、母なるオホーツクの海に抱かれ、湖と森の美しい自然にかこまれた網走の市民です。

わたしたちには、遠いむかしから風雪にたえぬいて、この地をきり拓いてきた、たくましい先人の心がうけつがれています。

わたしたちは、このまちの市民であることに、かぎりない喜びと誇りをもち、のびゆく網走の良い市民となる願いをこめて、ここに市民憲章を定めます。

1. うみやまの深いみどりをいつまでも美しく、心豊かなまちをつくりましょう。
1. うけついだ文化にまなび、世界の人々と手をつなぎ新しいオホーツク文化のまちをつくりましょう。
1. たがいにもごころをもってつきあい、老人を大切にし、子どもの夢をそだてる、しあわせなまちをつくりましょう。
1. 元気で仕事にはげみ、生きがいのあるまちをつくりましょう。
1. みんなが力をあわせ、人のいのちをだいじにする、明るく住みよいまちをつくりましょう。

3. 計画の構成と期間

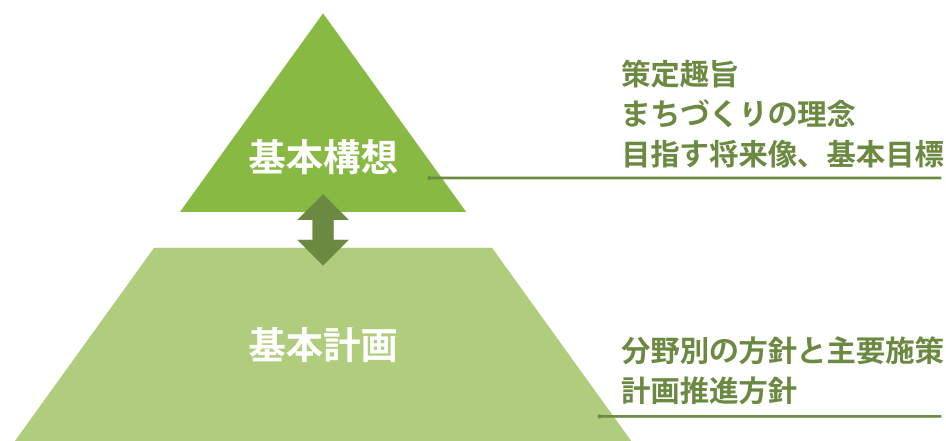
この計画は、「基本構想」と「基本計画」で構成し、計画期間は、平成 30（2018）年度から平成 39（2027）年度までの 10 年間とします。

基本構想

基本構想には、まちづくりの基本的な考え方や目指すべき将来像、それを実現するための目標を示します。

基本計画

基本計画には、基本構想で示した目標を達成するための、分野別のまちづくりの方針や取り組む内容を示します。



4. 計画策定の体制

「みんなの総合計画」と「わかりやすい総合計画」の視点から、計画策定の体制は次のとおりとしました。

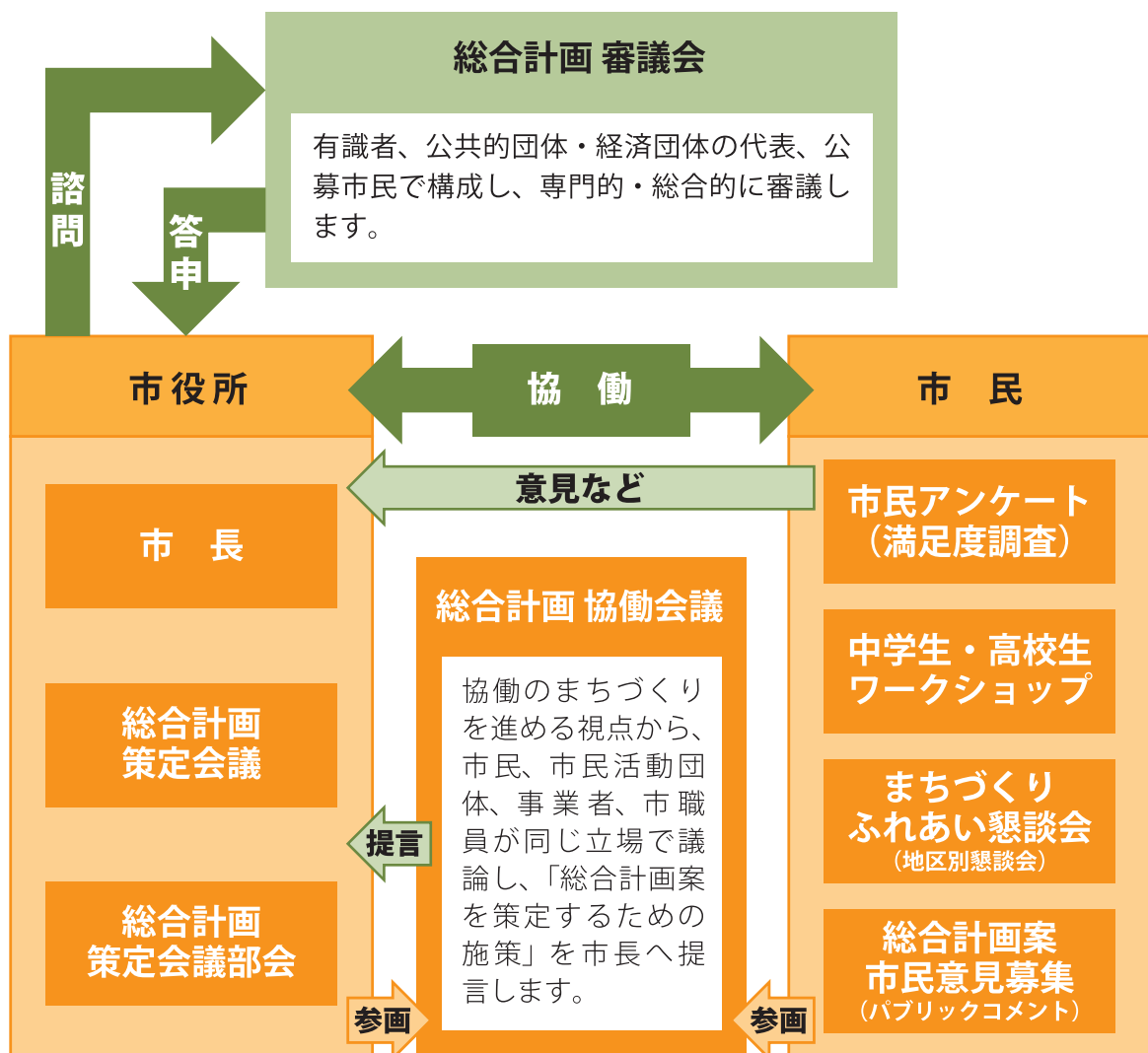
専門的、総合的な見地で計画案を審議し市長へ答申する機関として、有識者、各団体代表、公募市民で構成する「審議会」を設置しました。

次のまちづくりを担う若い世代の方々が、まちの魅力、課題、将来像などを同じ立場で議論する場として、市民、団体、事業者、市職員で構成する「協働会議」を設置しました。

まちの未来を担う中学生や高校生の皆さんが、まちの魅力や将来を語るワークショップを開催しました。

このほか、まちづくりふれあい懇談会や区長会議、パブリックコメントなど、さまざまな機会で市民意見を募集しました。

また、現在のまちづくりに対する満足度や、まちの将来像についての市民意識を把握するため、アンケート調査を実施しました。



第1章 網走市のいま

1. 時代の潮流と網走市

- (1) 人口減少・少子高齢化社会の急速な進行
- (2) 環境問題の深刻化と資源・エネルギー事情の変化
- (3) 安全・安心に対する意識の高まり
- (4) グローバル化と高度情報化のさらなる進展
- (5) 協働による持続的なまちづくりの重要性

2. 市民の思い

- (1) 網走の魅力と課題（市民ワークショップから）
- (2) まちの将来像（市民ワークショップから）
- (3) 必要な取り組み（市民ワークショップから）
- (4) 市民の満足度と重要度（市民アンケートから）



1. 時代の潮流と網走市

(1) 人口減少・少子高齢化社会の急速な進行

我が国は、本格的な人口減少・少子高齢化社会を迎え、経済成長、産業、社会保障など、さまざまな分野への影響が懸念されます。特に地方では、大都市圏への人口流出に歯止めがかからず、人手不足や地域活力の低下が進行し、保健、医療、福祉、地域交通、コミュニティなどの生活基盤を維持・確保することさえ困難になるなど、深刻な影響が懸念されます。

本市の平成27年国勢調査人口は、ついに4万人を下回る3万9,077人、高齢化率（65歳以上の人口割合）は26.9%となっており、この傾向はさらに進むことが予想されます。

このような人口減少社会にあっても、安心して子どもを産み育てられ、誰もが健康で安心して暮らすことのできるまちづくりが求められています。

(2) 環境問題の深刻化と資源・エネルギー事情の変化

地球温暖化の進行による氷河の融解、海面水位の上昇、生態系の変化、病気の媒体となる生物の生息域の拡大、異常気象などは、私たちの生命や財産に大きな被害を与えると考えられています。特に、近年多発している集中豪雨や暴風雪による災害リスク、真夏日や猛暑日の増加による熱中症の危険性の高まりなどが懸念されています。

今後、新興国のエネルギー需要の増大が予測される中、環境への影響が少ない再生可能エネルギーの導入や省エネルギー対策の重要性が一層高まっています。

また、身近な環境問題であるごみ処理では、減量化やリサイクルなど、限りある資源の有効活用が求められています。

次世代へ良好な環境を引き継ぐためにも、環境に負荷の少ない循環型社会の形成が必要となっています。

(3) 安全・安心に対する意識の高まり

近年、東日本大震災や熊本地震など大規模な自然災害が頻発しており、住民の防災に関する意識は高まっています。

大規模災害の教訓により、国、道、市など関係機関（公助）による防災対策の推進はもとより、「公助、自助、共助」が密接に連携することが極めて重要との認識の下、「自分のことは自分で守る」（自助）と「自分たちの地域は自分たちで守る」（共助）の意識の向上と体制の構築が求められています。

また、道路、橋梁、公園、上下水道などのインフラや、庁舎、学校、公営住宅などの公共施設の老朽化が進む中、将来世代に大きな負担を強いることのない、安全・安心で持続可能な市民サービスの提供が求められています。

人口減少や人口構造の変化による利用需要を的確に捉えた、公共施設等の総合的な企画、管理が必要となっています。

(4) グローバル化と高度情報化のさらなる進展

世界的な貿易自由化の進展と交通・情報手段の飛躍的な発達、普及により、ひと、もの、資本、情報などの移動が活発化しており、経済活動をはじめとし、日常生活などのあらゆる面において世界各国との結びつきが強まっています。

経済のグローバル化の進展に伴い、国際的な市場競争が激化する中、基幹産業である農業、水産業および観光業の持続的な発展には、競争力を高め、アジア諸国などの経済成長を取り込むことが必要となっています。

また、近年は、ICT（情報通信技術）の進展、ビッグデータ、AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）、ロボットなどの技術革新が急速に進んでいます。

人口減少・少子高齢化の進展による労働力不足が懸念される中、こうした新しい技術の組み合わせは、私たちの働き方を変えるなど、さまざまな分野で大きな変化をもたらす可能性を秘めています。

(5) 協働による持続的なまちづくりの重要性

人口減少・少子高齢化、経済のグローバル化、情報化など、私たちを取り巻く社会経済情勢は常に変化・複雑化し、住民のライフスタイルや価値観は変わり、そのニーズは多様化、高度化しています。

一方で、本市の財政は依然として厳しい状況にあり、歳入環境では一般財源総額（自由に使えるお金）が減少傾向にある中、歳出環境では社会保障関係費が増加を続け、さらに公共施設等の老朽化が進み、多くの施設が更新時期を迎え、維持管理や更新費用が増大することが予測されます。

こうした現状では、多様な市民ニーズに対応するために、行政だけで地域課題を乗り越えていくことは、もはや困難となっています。

市民、団体、企業、行政など多様な担い手が一体となり、それぞれの特性を活かし、連携しながら、さまざまな地域や社会の課題に立ち向かい、まちづくりに取り組むことが必要となっています。

2. 市民の思い

網走の未来を担う中高生や次のまちづくりを担う若い世代の方を対象に、まちの魅力、課題、将来などを語り合う市民ワークショップを開催し、さまざまなご意見を頂きました。

また、市民アンケートを実施し、まちづくりに対する満足度や、まちの将来像について多くのご意見を頂きました。

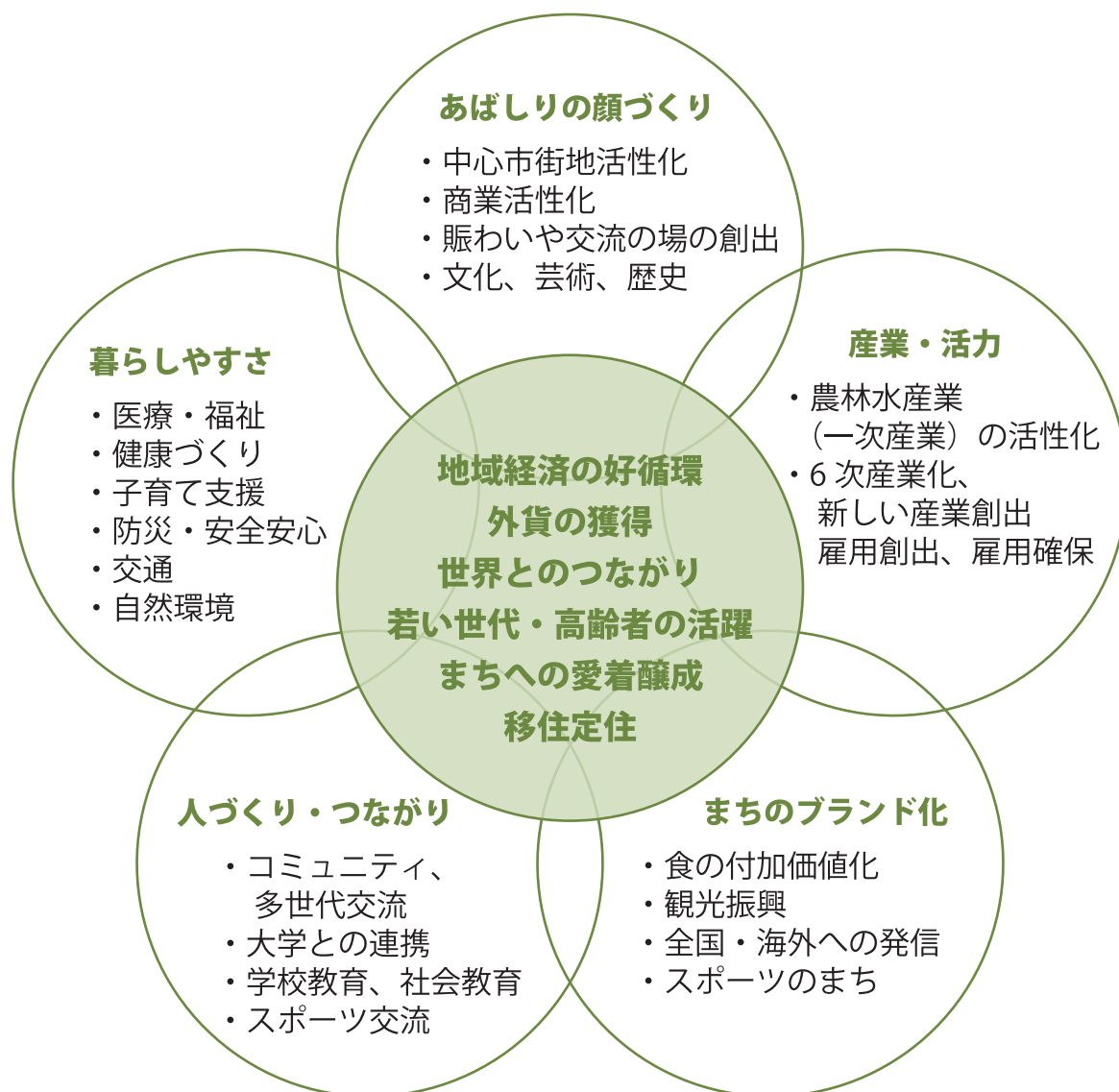
(1) 網走の魅力と課題（市民ワークショップから）

項目	魅力	課題
自然	豊かな自然、過ごしやすい気候、災害が少なく安心して暮らせる。	自然環境を守っていく必要がある。
ひと	やさしい、温かい人が多く、人と人、組織同士のつながりが強い。学生が多い。	コミュニティの担い手が不足 高齢者の1人暮らしが多い。 結婚しない人が増えている。
健康・医療	病院が多数あり安心感がある。	専門的、先進的な病院が少ない。健康づくりが浸透していない。
子育て	子育て支援が手厚く、子育てしやすい環境が整っている。	
食	海産物や農産物が豊富でおいしい。食がブランド化されている。	さらに商品化、ブランド化する必要がある。
産業	農業、水産業など一次産業が盛ん。流水など観光資源が豊富でアジア圏を中心に外国人観光客が多い。観光資源、観光施設が多い。	外国人観光客への対応（看板など）が追い付いていない。 観光の魅力発信が必要 広域での観光、商業振興
雇用		若い人が希望する就職先がない。 働き手、担い手が不足、起業支援
交通		公共交通（バス、鉄道）が不便、買い物不便、空港の強化
スポーツ	スポーツ環境が整っている。スポーツ合宿が盛ん。	競技人口を増加させる仕組みや合宿の選手と地元の子どもの交流がもっとあれば良い。
中心市街地・にぎわい	イベントが多い。	中心市街地を歩く人が少ない。 空き地、空き家が増えている。 子ども、若者の遊び場、高齢者の出歩く場が少ない。
その他	網走の知名度が高い。 農大との連携、大学生や高校生がまちづくりに関わっている。	

(2) まちの将来像（市民ワークショップから）

- ・自然豊かなまち
 - ・全ての人にやさしいまち
 - ・みんなが活躍するまち
 - ・人のつながりがあるまち
 - ・子育て環境が充実したまち
 - ・医療が充実したまち
 - ・オホーツクの中心
 - ・活力があるまち
 - ・にぎわいのあるまち
 - ・交通の充実したまち
- いつまでもきれいな自然、自然を活かしたまち
誰もが住みやすいまち、幅広い年代が楽しめるまち
農大生、高校生、障がい者などみんなが活躍
多世代、観光客などと交流のあるまち
子どもを大切にするまち
専門病院、周産期医療の充実
情報発信と食のブランド化、知名度の高いまち
働く場所があり、産業が盛んなまち
たまり場の創出、中心市街地のにぎわい
バスやＪＲの運行本数の充実

(3) 必要な取り組み（市民ワークショップから）



（4）市民の満足度と重要度（市民アンケートから）

本市のこれまでの取り組みに対する満足度と重要度についてアンケート調査を実施しました。

市民の皆さんが、重要度が最も高いと考えている項目は、「医療」「廃棄物処理・再資源化」「高齢者福祉」「生活福祉・社会保障」「保健」となりました。

この中で、満足度も高いとした項目は「保健」で、逆に満足度が低いとした項目は「生活福祉・社会保障」となりました。

その他では、重要度、満足度、共に高いとした項目は「消防・救急」「上水道・生活排水処理」「義務教育」となり、満足度が高いとした項目は「スポーツ」「火葬場・墓地」となりました。

一方、重要度は高いが、満足度が低いとした項目は「財政」「雇用労働対策」となり、満足度が低いとした項目は、「商業」「新産業創出」「土地利用市街地整備」となりました。

住みやすさに関する意識調査では、「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」が、66.8%と全体の6割以上を占め、主な理由は、「自然環境が良いから」「日常生活が便利だから」となっています。

幸福感（豊かさ）に関する意識調査では、「心身の健康」が最も多く、次いで「家族との楽しい暮らし」「恵まれた自然」が挙げられています。

まちの将来像に関する意識調査では、「保健・医療・福祉が充実した健康で安心して暮らせるまち」が最も多く、次いで「日常生活が便利で快適に暮らせるゆとりあるまち」が多い結果となりました。

第2章 網走市の将来に向けて

1. まちづくりの理念
2. 目指す方向性
3. 将来像
4. 将来像を実現するための5つの目標
 - 目標1 一人ひとりを大切にするやさしいまち
 - 目標2 豊かな自然と共生する安心なまち
 - 目標3 ひとが集いにぎわいと活力を生むまち
 - 目標4 豊かなひとを育むまち
 - 目標5 とともに歩み、築く協働のまち



1. まちづくりの理念

“まち”は、そこに住む人々が快適でうるおいのある、創造性豊かな、夢と希望の持てる生活が営めるところでなければなりません。

私たちは、母なるオホーツクの海に抱かれ、森と湖の美しい自然に囲まれた網走に住んでいます。

網走は、長きにわたって、たくましい先人が幾多の困難をのりこえて築きあげてきたまちです。

そして今、私たちは、この網走を、私たちの後を受け継ぐ世代へどのような姿で引き継ぐのか、という大きな責任をもっています。

このため、私たち一人ひとりが先人の知恵と力を継承し、網走がもっている資源を最大限に生かして、新しいまちづくりの道を拓かなければなりません。

ここに、私たちは、すべての市民が幸せを感じることができ、個性豊かで私たちが共に誇れる網走を、私たち自身の手によって築くため、人間尊重を基本に、まちづくりを進めます。

2. 目指す方向性

本市には、さまざまな魅力ある資源があります。

自然、気候、景観、文化、歴史、ひと、もの、まち、それぞれが魅力に溢れ、人を引き付けています。そのことは、本市を訪れる多くの観光客、アスリート、そして一定の期間、このまちで暮らす東京農業大学の学生たちが証明しています。

このまちは、私たちがまだ気づいていない、気づけない、魅力を秘めています。

人口減少・少子高齢化社会は、深刻な課題を次々に顕在化させますが、市民、団体、企業、行政などが、さまざまな形で連携を強め、深化させながら、一体となって、まちの魅力を守り、さらに引き出し、創出しながら、まちの持つポテンシャルを最大限に活かしたまちづくりを進めることにより、この難局を乗り越え、次の世代にも素晴らしい網走を引き継いでいきます。

誰もが
暮らしやすい
やさしい
まちづくり

まちの魅力を
引き出す、
創出する

さまざまな連携、
協働による
まちづくり

時代の変化にも
対応できる
持続可能な
まちづくり

3. 将来像

『豊かな自然に ひと・もの・まちが輝く健康都市 網走』

本格的な人口減少・少子高齢化社会の進行により、生活基盤の維持さえ困難な時代を迎えようとしています。網走の持つさまざまな魅力を最大限に活かしたまちづくりを進めることにより、この難局を乗り越え、10年先も豊かで美しい自然の中、ひと・もの・まちが輝き続け、誰もが健康で安心して暮らすことのできるまちを将来像とします。

4. 将来像を実現するための5つの目標

将来像を実現していくために、5つの目標を掲げ、まちづくりを進めます。

目標1 一人ひとりを大切にするやさしいまち

1 取り組みの方向性

市民一人ひとりが生涯を通じて健康で、安心して生きがいをもって暮らすことができ、子ども、高齢者、障がいのある方などを地域全体で支えるやさしいまちを目指します。

2 取り組みの分野

1	保健医療	①保健 ②地域医療、救急医療
2	地域福祉	①地域福祉 ②高齢者福祉 ③障がい者福祉 ④子ども・子育て支援
3	生活福祉	①社会保障

目標2 豊かな自然と共生する安心なまち

1 取り組みの方向性

豊かな自然環境と水と緑が織りなす美しい景観を次代に継承し、自然と調和した快適な生活環境の創出を図るとともに、市民の命と暮らしを守る安全・安心なまちを目指します。

2 取り組みの分野

1	都市空間	①土地利用
2	都市基盤	①道路 ②港湾・漁港 ③公共交通 ④通信
3	生活安全	①防災・減災 ②消防 ③生活安全
4	環境	①自然環境、景観形成 ②生活環境 ③資源循環
5	生活基盤	①住宅・宅地 ②上水道 ③生活排水処理 ④火葬場・墓地

目標3 ひとが集いにぎわいと活力を生むまち

1 取り組みの方向性

地域特性を活かしつつ、経営の効率化や高付加価値化などを進め、安全・安心で力強い産業振興を図りながら、まちの魅力を創出し、人が集い、にぎわいのある活力あふれるまちを目指します。

2 取り組みの分野

1	農林業	①農業 ②林業
2	水産業	①漁業 ②水産加工・販売促進
3	観光	①観光
4	商工業	①商工業
5	産業振興	①産業振興 ②就労対策

目標4 豊かなひとを育むまち

1 取り組みの方向性

子どもたち一人ひとりの夢を大切にしながら、明日を拓く「生きる力」を育むとともに、誰もが生涯を通じて学習、文化、芸術、スポーツに親しむことができ、スポーツや文化など地域特性を活かしたさまざまな交流により、豊かな人間性を育むまちを目指します。

2 取り組みの分野

1	学校教育	①学校教育 ②学校づくり ③高等学校、高等教育
2	社会教育	①生涯学習 ②社会教育
3	文化	①芸術文化 ②文化財保護
4	スポーツ	①スポーツ
5	交流	①国際交流、地域間交流

目標5 ともに歩み、築く協働のまち

1 取り組みの方向性

市民の積極的な市政への参画や情報共有等を推進しながら、市民と行政の信頼関係を深め、ともに考え、ともに築くまちを目指します。

また、時代のニーズに適応した効率的・効果的で持続可能な行政運営を進めるとともに、さまざまな連携により地域課題の解決を目指します。

2 取り組みの分野

1	地域協働	①男女共同参画・人権 ②市民活動 ③情報
2	行政運営	①行政運営 ②広域連携

第3章 計画の推進

1. 計画推進の考え方
2. 計画推進の手法
3. 計画の進行管理
 - (1) 点検・評価の実施
 - (2) PDCAサイクルに基づく行財政運営
 - (3) 計画の見直し



1. 計画推進の考え方

市民、団体、企業など多様な主体と行政が、目指すべきまちの姿と方向性を共有しながら、その実現に向けて対等な立場で互いに協力し、それぞれの持つ特性を最大限に発揮できるさまざまな連携・協働の取り組みを進めます。

また、誰もが健康で安心して暮らし続けられるよう、行政サービスの維持・向上と、社会経済情勢の変化に対応するため、行政改革と財政健全化に取り組みます。

2. 計画推進の手法

総合計画は、長期的な展望に立って、市の基本的な方向を総合的に示す「まちづくりの指針」であり、この指針に基づく各分野の個別計画などにより、具体的施策に取り組みます。

3. 計画の進行管理

(1) 点検・評価の実施

この計画の推進にあたっては、毎年度、各分野の主な事務事業の成果を取りまとめ、計画の効果的な推進が図られているかを評価・検証し、進行管理を行います。

(2) PDCAサイクルに基づく行財政運営

この計画に掲げた5つの目標を、限られた財源の中で進めていくためには、効果や優先順位を考えながら取り組んでいくことが重要です。

そのため、総合計画を基軸として各分野の個別計画や事務事業評価などと連携しながら、計画(plan)、実行(do)、評価(check)、改善(action)のPDCAサイクルによって進行管理を行い、効果的、効率的な予算編成や施策・事業の展開を図ります。

(3) 計画の見直し

中期的な点検・評価の結果や経済社会情勢の変化のほか、国や北海道の法制度等の動向、各種計画の策定状況なども踏まえながら、必要に応じて計画の見直しを検討します。